

飛鳥資料館 夏期企画展「鑄造技術の考古学-東アジアにひろがる鑄物師のわざー」

金属を溶かし、鑄型に流し込むことによって製品を作る技術を鑄造技術といいます。東アジアにおける鑄造技術は、いまから4000年以上前の中国で出現し、殷周時代の複雑な青銅器を作り上げるまで発展します。やがてその技術は周辺の地域に伝わり、日本では奈良時代に巨大な東大寺盧舎那仏像を築きあげます。

奈良文化財研究所では、これまでの60年近くにわたる活動のなかで、飛鳥・奈良時代を中心とした数多くの鑄造遺跡の調査をおこなうとともに、梵鐘・鏡・銭貨などさまざまな金属製品にたいする研究に取り組んできました。

本展では、東アジア史的な観点から鑄造技術の歴史の変遷をたどるとともに、奈文研の鑄造技術に関する調査研究を紹介します。

(飛鳥資料館 丹羽 崇史)



開催期間：2011年8月2日(火)～9月4日(日)

お問合せ：TEL 0744-54-3561 (飛鳥資料館)

開館時間：9:00～16:30 (入館は16:00まで)

休館日：月曜日

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2011年6月